



# 学校だより

令和5年10月10日  
 発行者 横浜市立金沢中学校  
 校長 鈴木 薫

乙舳の海世界に通ず

10月号増刊号

学校教育目標 生き方を創り出す力・命を大切に作る心・活気ある学校

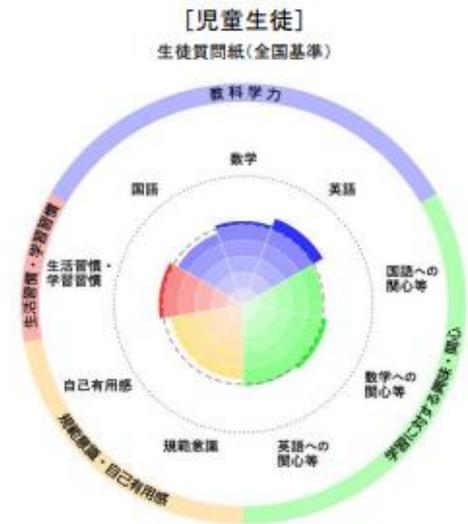


## 「今後に生かす！全国学力・学習状況調査結果」

校長 鈴木 薫

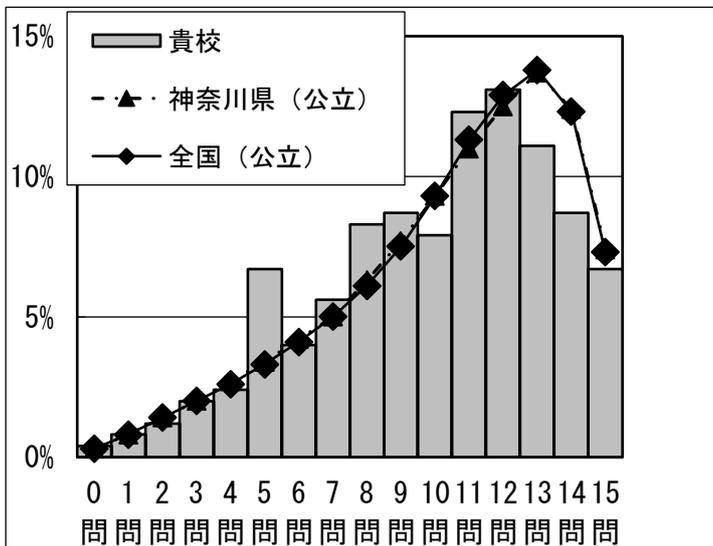
今日から後期がスタートします。ここで、今年4月18日に中学3年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。生徒の学習改善・学習意欲向上や教師の授業改善につなげることが主な調査の目的です。

右に示すグラフが全体像です。教科学力（国数英）、学習に対する興味・関心、規範意識・自己有用感、生活習慣・学習習慣の4つの分野に分けての状況です。生活習慣においては、朝食を毎日しっかりとっているなどの好ましい習慣が、全国に比べて高い傾向にあり、自己有用感については、やや低く、学習に対する興味・関心の高い教科は学力もついてきている傾向にあります。それでは教科ごとに見ていきます。



国語	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
横浜市立金沢中学校	252	10.0 / 15	67	11.0
神奈川県(公立)	60,261	10.4 / 15	70	11.0
全国(公立)	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0

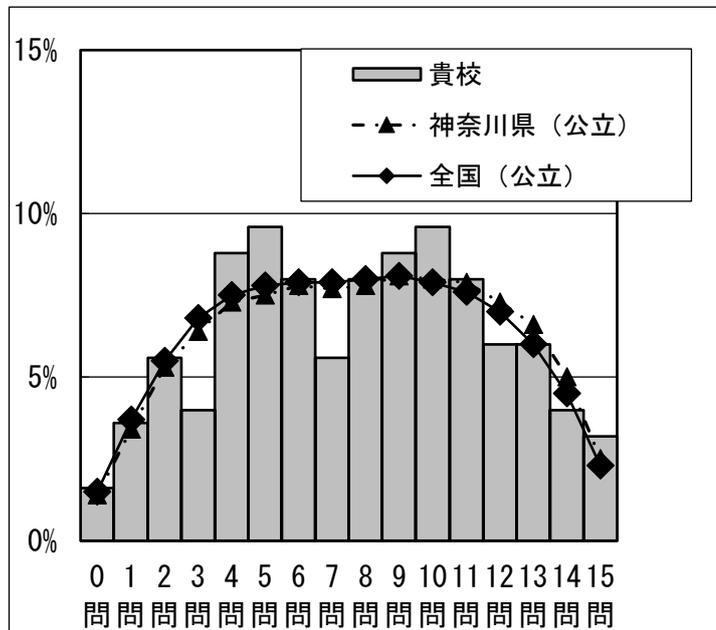
次に示すのは、正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)です。



国語に関しては、集団の中央値は全国、神奈川と変わりありませんが、平均正答率がやや低い結果となりました。正答分布グラフからは、正答率33パーセント程度(5問正答)の集団が多いのを見て取れます。ここには示せていませんが、問題調査結果から、問題形式で記述式のほうが、短答式よりも正答率が高く、文脈に即して漢字を正しく書くことや歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む力をつけて行く必要があるようです。

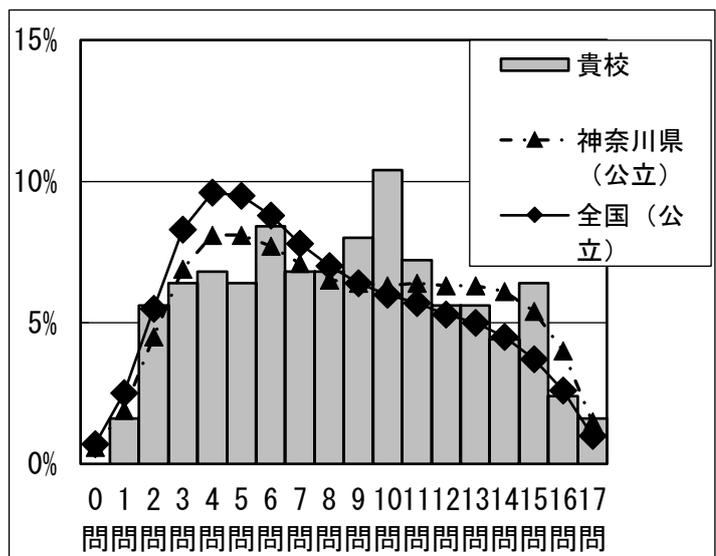
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
横浜市立金沢中学校	251	7.8 / 15	52	8.0
神奈川県 (公立)	60,302	7.8 / 15	52	8.0
全国 (公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0

次に示すのは、正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）です。



数学に関しては、集団の中央値は全国、神奈川と変わりありませんが、平均正答率は全国よりやや高い結果となりました。正答分布グラフからは、正答率33パーセント程度（5問正答）と66パーセント（10問正答）の集団が多いのを見て取れます。ここには示せていませんが、問題調査結果から、事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題の無答率が高かったのが気になります。

英語	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
横浜市立金沢中学校	251	8.6 / 17	51	9.0
神奈川県 (公立)	60,318	8.6 / 17	50	8.0
全国 (公立)	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0



英語に関しては、集団の中央値は全国、神奈川より高く、平均正答率が全国よりやや高い結果となりました。正答分布グラフからは、正答率60パーセント程度（10問正答）の集団が多いことが見て取れます。問題調査結果からは、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題の正答率は高いようです。社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる問題については、正答率が低いことから、まとまった英文の内容を読み取る学習の機会を増やすことが望まれます。

この調査の問題では、次の①と②を一体的に問うこととしています。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等